

C—36 体温調節作用からみた婦人服装の研究  
—特に型の相違がこれに及ぼす影響  
について—

名古屋女大家政 ○巖佐 博子  
奈良教育大 中谷 和  
奈良女大家政 水梨サワ子

1. 衣服による体温調節作用は、被服の型、被服材料、被服の構成(着方)によって左右される。この中で、被服型の相違は被覆面積に大きな影響を与えるが、今回私たちは、被覆面積がほぼ等しいと思われる被服型の中にも、開放的なものと、密閉的なものがあることに着眼し、開放型と密閉型の2種の婦人服を製作して、安静時、歩行時の体温調節にどのような影響を与えるかを実験、検討した。

2. 被検者2名(女子大生)に、材質、構成、被覆面積及び着衣指数を同一にし、外衣の型にのみ相違をもたせた開放型、密閉型の2種の衣服を着用させ、一定温度条件下(21°C, 26°C)で、各々、安静時、歩行時について種々の項目を測定し、これらの測定値より、平均皮膚温、産熱量、クロ値等を算出した。

3. 被覆面積が等しければ、今回の実験衣服程度の開放型と密閉型の差異では、体温調節作用に顕著な影響を及ぼさない、という結論をえた。これは、21°C, 26°C, 又、安静時、歩行時いずれについてもいえることである。